

北海道新聞

平岸の歴史を訪ねて

自然史編

第5回・母なる豊平川と二つの扇状地③

前回までの連載で札幌が豊平川の扇状地の上に来た街であることを書きました。扇状地というと、きれいな扇形の地形を思い浮かべるかもしれませんが、実際には微妙に凹凸があります。これは扇状地が川の作った地形だからです。今は街になっている扇状地の上を豊平川が流れていたときのことを想像してみましよう。そこには川が流れていたところ(河道)と洪水のときだけ水があふれるところ(氾濫原)があったはずで、いつも水が流れている河道の部分は当然氾濫原よりも少し低くなっています。そして大きな洪水で川の流れ(流路)が変わって、河道だった部分が干上がってしまうと、そこには周りよりわずかに低い土地がかつての流路のまま取り残されてしまいます。札幌市中央図書館前の南22条通ではこのような地形が観察できます(写真1)。



図1. 寛政以前の豊平川の流れ

近代に入り、治水対策が徹底された現在では想像できないかも知れませんが、川というのは数百年に一度という大洪水によって流路が変わるものです。現在の豊平川は苗穂のあたりで東に折れ、雁来・米里方面へ流れています。もともとは苗穂からまっすぐ北の伏古・丘珠方面へ流れ、篠路で石狩川に注いでいました(図1)。しかし、江戸時代後期寛政年間の大洪水により、豊平川は大きく流路を東に変え、現在の流れになりました。以前の流路には現在伏籠川が流れています。アイヌ語で『フシコ』とは古いを意味し、昔の豊平川がこちらを流れていたことを示しています。大洪水が起きた年代がはっきりわかっていないのは、アイヌの人々が文字として記録に残す習慣がなかったためですが、洪水のおそらく4、5年後の文化3年(1806)に札幌を訪れた和人による記録が残



写真1. 南22条通の扇状地微地形
手前より奥に向かってなだらかに傾斜している。

されています。その人物とは、江戸幕府の対ロシア政策のため巡検に赴いた目付、遠山金四郎景晋(時代劇で有名な遠山の金さん)遠山金四郎景元(父)。これによると川の流れが大きく東へ移動し、江列市の対雁付近で石狩川と合流するようになったこと、水深が深くなり船舶の往来が可能となったことなどが記されています。アイヌ側の記録としてはこれより約三十年後(1830年ごろ)の洪水が、明治初期の古老の話として伝わっています。その時の様子として、札幌一面が泥海となり水が約3〜4メートルの高さまで上がり、近くの大きな木の上に登って数日間絶食して辛くも命が助かったことが伝わっています。豊平川はこの後も頻繁に洪水を繰り返し、その度に大きな被害を与えています。札幌の開拓の歴史は豊平川との戦いの歴史と言ってもいいぐらいですが、詳しくは今後の開拓編で述べたいと思います。

近年では、昭和56年の大水害により、死者3人、氾濫面積614km²、被害家屋約3万991戸という大きな被害が出ました。札幌市発行の洪水ハザードマップを見ると札幌中心部のほぼ全域と白石区・東区・北区の大部分が150年に一度の大雨で浸水するという予測が出ています。豊平区では中の島く水車町地区以外は豊平川の氾濫の影響はないとされていますが、望月寒川流域では、過去に洪水を起こしたことがあり、注意が必要です。次回は豊平区付近の豊平川の変遷について紹介する予定です。

参考資料 札幌市教育委員会(1978)『豊平川』、さっぽろ文庫4、札幌市教育委員会。

高倉新一郎編(1982)『遠山・村垣西蝦夷日記』(犀川会資料第13号)、『犀川資料会 全』所収、北海道出版企画センター、札幌、p421。

バックナンバーお届けいたします。バックナンバー保管してありますので、ご希望の方は販売所までお気軽にご連絡ください。さい。ご自宅までお届けいたします。

取材協力をお願い…この連載では今後現代にいたるまでの平岸の歴史を紹介する予定です。昔の思い出や資料・写真など平岸の歴史に関わることをご存知の方はどんなことでも結構ですのでお気軽にお知らせいただけますと幸いです。

【編集後記】 お礼とお願い

本連載を始めてちょうど2ヶ月になります。始める前はこういうマニアックなものが受け入れていただけるか不安でしたが、おかげさまで多くの反響を頂きました。また数々の情報提供や写真の提供もしていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。ここで読者の方々にお願いがあります。本連載では現在縄文時代編の執筆準備を進めています。諸資料からかつては南平岸地域にも多くの湧き水や小川が流れていたことを知りましたが、細かい場所が特定できておりません。ご存知の方がおりましたら、あいまいな記憶でも構いませんので当販売所伴野までご連絡下さい。

執筆者：道新永田販売所営業主任 伴野卓磨

1977年室蘭市生まれ。金沢大学理学部地球学科博士課程(古生物学専攻)を修了後、六花亭に入社。2011年より現職。

◇発行元◇

(有)北海道新聞永田販売所

〒062-0936

札幌市豊平区平岸6条13丁目7-18

TEL: 0120-1128-348

FAX: 0120-1128-358

◆この連載は毎月1日・15日の道新朝刊に折り込みいたします